

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

**平成 25 年度～平成 29 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

1 学校法人名 自治医科大学 2 大学名 自治医科大学

3 研究組織名 大学院看護学研究科

4 プロジェクト所在地 栃木県下野市薬師寺 3 3 1 1 番地 1 5 9

5 研究プロジェクト名 日本型地域ケア実践開発研究事業

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
春山 早苗	大学院看護学研究科	研究科長

8 プロジェクト参加研究者数 21 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
春山 早苗	大学院看護学研究科・研究科長・教授、看護職キャリア支援センター・副センター長	地域ケア実践看護師教育体制の開発、地域ケア実践看護師フォローアップシステムの開発	研究全体の統括と管理
本田 芳香	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発、地域ケアスキル・トレーニングプログラムの実施と評価	研究全体の統括と管理
中村 美鈴	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの実施と評価	トレーニングプログラムの評価方法の検討と評価
野々山 未希子	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発	ケアスキル選定等のための調査の企画・実施・分析とトレーニング内容の検討
半澤 節子	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発	トレーニング方法の検討とトレーニングプログラムの作成
宮林 幸江	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの実施と評価	トレーニングプログラムの評価方法の検討と評価
大塚 公一郎	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発	トレーニング方法の検討とトレーニングプログラムの作成

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

小原 泉	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発	ケアスキル選定等のための調査の企画・実施・分析とトレーニング内容の検討
横山 由美	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの実施と評価	トレーニングプログラムの評価方法の検討と評価
村上 礼子	看護師特定行為研修センター・教授、キャリア支援センター・センター員	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの実施と評価	トレーニングプログラムの運営・実施
里光 やよい	大学院看護学研究科・准教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発	トレーニング方法の検討とトレーニングプログラムの作成
北田 志郎	大学院看護学研究科・准教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの実施と評価	トレーニングプログラムの運営・実施
茂呂 悦子	附属病院・看護師長/専門看護師、看護職キャリア支援センター・センター員	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの実施と評価	トレーニングプログラムの運営・実施
成田 伸	大学院看護学研究科・教授	地域ケア実践看護師フォローアップシステムの開発	受講者のフォローアップの実施とフォローアップ内容・方法の検討
永井 優子	大学院看護学研究科・教授	地域ケア実践看護師教育体制の開発	医師と看護師の協働体制・教育体制等の実態調査の企画・実施・分析
塚本 友栄	大学院看護学研究科・教授、看護職キャリア支援センター・センター員	地域ケア実践看護師教育体制の開発	地域ケア実践看護師の教育・支援システムの指針の作成
角川 志穂	大学院看護学研究科・准教授	地域ケア実践看護師フォローアップシステムの開発	トレーニング受講者の成果と課題に関する調査、受講者の所属施設支援内容・方法の検討
石川 鎮清	地域医療学センター地域医療学部門/総合診療部門、医学教育センター・教授	地域ケア実践看護師フォローアップシステムの開発	トレーニング受講者の成果と課題に関する調査、受講者の所属施設支援内容・方法の検討
川上 勝	大学院看護学研究科・准教授	地域ケア実践看護師教育体制の開発	地域ケア実践看護師の教育・支援システムの指針の作成
浅田 義和	メディカルコミュニケーションセンター/情報センター・講師	地域ケア実践看護師教育体制の開発	医師と看護師の協働体制等の実態調査の企画・実施・分析
福田 順子	大学院看護学研究科・講師、キャリア支援センター・センター員	地域ケア実践看護師フォローアップシステムの開発	受講者のフォローアップの実施とフォローアップ内容・方法の検討
(共同研究機関等)			

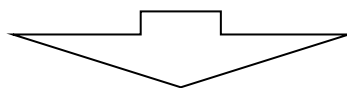
法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
		該当なし	

(変更の時期:平成 年 月 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

目的・意義:自治医科大学はへき地等地域医療に従事する医師及び看護職の養成を目的としている。わが国は医師の負担増大と地域医療崩壊の危機に直面しており、チーム医療の推進と看護師の役割拡大への期待が高まっている。本事業の目的は、看護師がチーム医療の中で機能できるための卓越した地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発研究並びに地域特性に応じた当該看護師の教育・支援システムの開発研究により、日本型地域ケア実践を開発することである。本事業により、地域ケアを担う人材育成から教育・支援システムの構築まで日本型地域ケア実践が体系化されるとともに、わが国の地域医療における医師と看護師の協働モデルを提示することができ、地域医療の質向上と活性化に寄与する。

計画の概要:平成 25 年度はトレーニング対象とする地域ケアスキル及び教育体制検討のための調査の実施。平成 26 年度は地域ケアスキル・トレーニング項目・方法・教材の検討、トレーニングプログラム第 1 次試案の作成、教育体制の検討と標準的指針の作成。平成 27 年度は第 1 次試案の評価研究の実施、第 2 次試案の作成、地域特性別等の教育体制の検討、フォローアップ内容・医療組織支援内容の検討。平成 28 年度は第 2 次試案の評価研究の実施、トレーニングプログラム完成版の作成、地域特性別等のフォローアップシステムの検討。平成 29 年度は地域ケアスキル・トレーニングプログラムと教育・支援システムを併せた評価。

(2) 研究組織

本研究プロジェクトでは、研究テーマ 1「地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発研究」と研究テーマ 2「地域ケア実践看護師の教育・支援システムの開発研究」を実施している。

①**研究代表者の役割:**研究全体の統括と管理、具体的には企画委員会、研究テーマ 1 と研究テーマ 2 の合同会議及び事業評価委員会の企画・運営を実施した。また、研究テーマ 2 の研究代表者も兼ねていることから研究テーマ 2 の統括と管理を行った。

②**各研究者の役割分担や責任体制の明確さ:**企画委員会において当初計画に照らして研究進行の方向性を確認、合意を得た上で、研究テーマ 1、研究テーマ 2、それぞれの研究代表者が各研究テーマの統括と管理を行った。研究テーマ 1 にはプログラム開発・推進委員会及びプログラム実施・評価委員会を置き、研究テーマ 2 には実践看護師教育システム委員会及び地域ケア実践看護師フォローアップシステム委員会を置き、研究者全てをいずれかの委員会に割り当て、役割分担を明確にし、各研究を推進した。

③**研究プロジェクトに参加する研究者の人数:**研究プロジェクトに参加する主な研究者 21 名の他、看護学部教員 26 名、医学部教員 1 名(地域医療学センター地域医療学/総合診療部門)、附属病院副看護部長 2 名、同看護職キャリア支援センター看護師長 1 名、同看護師特定行為研修センター教員 1 名、計 52 名が本プロジェクトに参加した。

④**大学院生等の活用状況:**看護学研究科博士前期課程の学生に地域ケアスキル・トレーニングプログラム第 1 次試案の受講及び評価、中間報告会及び成果報告会の運営について協力を得た。

⑤**研究チーム間の連携状況:**研究代表者が招集し、概ね月 1 回、研究テーマ 1 と研究テーマ 2 の合同

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

会議を開催し、相互の研究進捗状況を把握・共有するとともに、連携しながら本研究プロジェクトを進めた。また、平成 25 年度～平成 27 年度は本研究プロジェクトを推進するために合同勉強会を実施した。

⑥**研究支援体制**: 本学医学部、同地域医療学センター、同メディカルシミュレーションセンター、同附属病院看護部、同附属病院看護職キャリア支援センター、同看護師特定行為研修センターの協力を得て実施した。

⑦**老人クラブ及びボランティア団体との連携**: 地域ケアスキル・トレーニング方法の開発にあたり、模擬患者の育成に取り組んでおり、大学が所在する下野市の老人クラブ及び入院中の子どもとその家族の滞在施設である Donald・MacDonald・ハウス とちぎハウスのボランティア団体の協力を得た。

(3) 研究施設・設備等

研究施設の面積及び使用者数: 地域ケア実践演習室 176.0 m² 132 人

研究装置、設備名称及び利用時間数: 「高機能患者シミュレータ iStan」 134 時間

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<研究成果の概要及び達成度>

平成 25 年度: 全国のへき地診療所 833 施設の看護師を対象とした郵送自記式質問紙調査を実施し、へき地診療所における看護体制や看護活動の現状と変化、診療所において医師の指示のもと実施した経験のある診療の補助行為等を明らかにし、へき地で働く看護職の人材育成のために必要となる教育内容・教育体制等の検討に役立つ基礎資料を得た (①)。また、全国のへき地医療拠点病院 261 施設及び 100 床以上 400 床未満の医療機関 268 施設の看護職を対象とした郵送自記式質問紙調査(前年度実施)のデータ分析を実施し、地域医療に求められる実践能力と地域包括ケアのリーダーを担う高度実践看護師の育成のための教育内容・教育体制について示唆を得た (②)。さらに、へき地医療拠点病院 5 施設及び地域中核病院 3 施設を訪問し、看護師 22 名を対象にインタビュー調査を実施し、地域ケアスキル・トレーニングの項目・方法・教材の検討及び地域ケア実践看護師の教育体制の構築を促進又は阻害する要素を検討するための基礎資料を得た (③)。加えて、北関東圏内の地域病院又は訪問看護ステーションの看護職グループ、山村過疎地域にあるへき地医療拠点病院・診療所の看護職グループ、離島にあるへき地医療拠点病院・診療所の看護職グループ、計 3 グループ (16 人) へのグループインタビューを実施し、地域特性を考慮した、地域ケア実践看護師に必要なスキルを明らかにし、教育内容・方法・体制への示唆を得た (④)。

研究テーマ 1 については、①～④の調査結果から卓越した地域ケア実践看護師に必要なスキルを明らかにし、トレーニング対象とする地域ケアスキルを選定し、15 ケアスキル群を決定した。また、シミュレーション教育やナース・プラクティショナー (NP) 教育等について実績のある大学・機関等への施設、並びに、e ラーニングや e ポートフォリオ等 ICT を活用した教育方法に関する情報収集や勉強会を開催し、次年度計画であったトレーニング内容・方法の検討を開始した。

研究テーマ 2 については、①～④の調査結果からへき地診療所、へき地医療拠点病院、その他の地域医療支援病院における医師と看護師の協働の実態、②～④の調査結果からプロトコル作成及び看護師教育体制の実態、③④の調査結果から地域ケア実践看護師の教育体制を促進又は阻害する要素を明らかにした。またトレーニングのターゲットとなる看護師の特徴を明確にした。

平成 26 年度: 研究テーマ 1 については前年度の調査結果に基づいて、ケアスキル群毎のアセスメントや臨床判断に必要な知識と技術を整理するとともに、引き続きトレーニング内容・方法・教材を検討した。そして、特定行為(診療の補助)に係る 11 ケアスキル群及び特定行為以外の 4 ケアスキル群のトレーニングプログラム及びどのケアスキル群においても必要となる臨床能力にかかわる 4 トレーニングプログラムの第 1 次試案を作成し、次年度計画であった第 1 次試案の実施を進め、またトレーニングプログラムの評価方法を検討し、評価した。具体的には特定行為に係る 2 ケアスキル群及び特定行為以外の 4 ケアスキル群のトレーニングプログラムと臨床能力にかかわる 4 トレーニングプログラムについて、各プログラム 7～12 回の一部又は全部を実施した。教育方法は双方向性のある e ラーニングとし、対象は学内のインターネットにアクセス権を有する本学附属病院看護師、本学大学院看護学研究科学生、へき地医療拠点病院及びへき地診療所への附属病院からの派遣看護師とし、各科目 4～18 人が受講した。評価方法は、受講者に対する ARCS モデルに基づく Web 上でのアンケート及びグループインタビュー (3 グループ、計 14 人) とした。加えて地域看護職 (地

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

域病院又は訪問看護ステーションの看護師、山村過疎地域又は離島にあるへき地医療拠点病院・診療所の看護師、計3グループ、12人)に対するグループインタビューをした。

研究テーマ2については、本事業の周知と受講者のリクルート活動を行った。また、リクルートした看護師の所属施設の地域特性や施設機能の特性に応じた教育体制を検討し、その結果に基づき、eラーニングによる教育体制を整備するとともに、シミュレータ教育力の向上のための研修参加や情報収集を行い、高機能患者シミュレータ iStan、その他のシミュレータを用いた教育者側のトレーニングを行った。

平成 27 年度：研究テーマ1については前年度の第1次試案の評価に基づいて、特定行為以外の4ケアスキル群のトレーニングプログラムの第2次試案及び臨床能力にかかわる9トレーニングプログラムの完成版を作成した。次年度計画であったこれらのプログラムの実施を進め、前年度と同様の方法で評価した。教育方法は、4ケアスキル群のトレーニングプログラムについてはより双方向性を向上させたeラーニングとし、臨床能力にかかわる9トレーニングプログラムについては、集合演習や実習も組み合わせたブレンディッドラーニングとした。集合演習は、主に高機能患者シミュレータ iStan、その他のシミュレータを用いた演習とした。本学のeラーニング利用について外部者の利用環境を整備し、特定行為以外の4ケアスキル群のプログラムは各10人、臨床能力関連プログラムは各30人を目標に、全国のへき地診療所、県内の医療機関・訪問看護ステーション等に周知した結果、目標数を上回る申込みがあり、特定行為以外の4ケアスキル群のプログラムは各15人とした。特定行為に係る11ケアスキル群のプログラムについては、次年度実施に向け完成版を作成するとともに、ICT及び模擬患者の活用を含めた教育内容・方法・教材を検討した。

研究テーマ2については、前年度と同様、本事業の周知と受講者のリクルート活動を行った。また、第1次試案の教育実施体制の評価から教育体制を見直し改善した。さらにトレーニングプログラム受講後の看護師のフォローアップ内容及び所属施設に必要な支援内容から、受講者の学習支援のためのeポートフォリオを検討した。

平成 28 年度：本学では、大学の理念を踏まえ、平成27年8月に看護師特定行為研修センターを設置し、厚生労働省が指定する研修機関に指定され、同年10月より看護師特定行為研修を開始した。この研修に、本研究事業で開発した特定行為に係るトレーニングプログラムや教育・支援システムを取り入れて実施した。これに伴い、平成28年度からは、看護師特定行為研修センターで実施するもの以外のプログラムにのみ焦点を当てて、本事業を進めていくこととした。

研究テーマ1については8～9月に2回目となる特定行為以外の4ケアスキル群のeラーニングによるトレーニングプログラム第2次試案を、応募延べ数は68人であったが各プログラム10人ずつを選定し実施した。平成26年度に検討した評価票による評価に基づき、完成版を作成した。12～2月に、この完成版に4つのケアスキル群を併せた演習プログラム及び看護研究のプログラムを新たに加えて、計6プログラムを実施し、受講者数は延べ44人であった。新たなプログラムの評価に基づき、模擬患者及びシミュレータの活用並びに医師をはじめとした他職種の協力等演習プログラムの教育方法を検討した。さらに、平成27年度及び平成28年度8～9月開講のプログラム受講者及び看護管理者(4都道府県のへき地診療所7か所の受講者4人及び看護管理者4人、4県のへき地医療拠点病院7か所の受講者17人及び看護管理者9人、2県のへき地診療所及びへき地医療拠点病院以外の病院3か所の受講者5人及び看護管理者6人)を対象とした訪問調査を企画・実施し、トレーニングプログラムの教育内容の精練と体系化を検討するための分析枠組みを検討した。

テーマ2については、実施したトレーニングプログラムの評価に基づき、eラーニングによる教育・支援システムを見直し、改善するとともに、演習プログラムの教育体制及び演習プログラムにおいて模擬患者を活用するための体制や模擬患者の育成並びにフォローアップについて検討した。平成28年度より模擬患者の養成にもeラーニングを活用し、9人を新たに養成した。また、前述した訪問調査の結果に基づき、受講終了後のフォローアップ内容及びフォローアップシステム並びに受講者の所属施設に必要な支援内容の検討を開始した。さらに、地域ケア実践看護師の教育・支援システムの標準的指針を作成するために、eラーニングにかかわる各種マニュアルを見直し、改善するとともに、eラーニングを活用した研修システムに必要な要件等を整理した。

平成 29 年度：研究テーマ1については、本トレーニングプログラムの目的や特徴がよく理解されるようリーフレットを作成し、全国のへき地診療所、北関東3県の訪問看護ステーション及び栃木県内医療機関、これまでのグループインタビュー協力者所属のへき地医療拠点病院等へ送付し、受講者を募集した。平成29年度は、4ケアスキル群のeラーニングによるトレーニングプログラムと看

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

護研究のプログラムをベーシック・プログラムとして、また、昨年度実施した4つのケアスキル群を併せた演習プログラムはケアスキル群毎に分け、そこに看護研究フォローアップ研修を加えた演習プログラムをフォローアップ・プログラムとして、計10プログラムを実施した。募集人数は前者が各プログラム10人、後者が各プログラム6人程度とし、受講者は前者が延べ75人、後者が延べ18人であった。

テーマ2については、eラーニングにより模擬患者5人を新たに養成した。平成27年度から受講者の修了後のフォローアップとして検討していたeポートフォリオを、活用の簡便さの点からLMS(Learning Management System)のMoodleにより構築したサポートプログラムに変更し、修了者の求めに応じてフォローできるようにした。平成28年度に実施したeラーニングを活用した教育・支援システムの要件の整理及び平成28-29年度に実施した受講者とその所属施設の看護管理者等への訪問調査の結果並びに各プログラムの評価結果等に基づき、地域ケア実践看護師の教育・支援システムの指針を作成した。

各プログラムの評価結果及び平成28-29年度の訪問調査により調べた本トレーニングプログラム受講者のへき地を含む地域における看護実践の内容と本プログラムの影響から、地域ケア実践看護師のコンピテンシーを明らかにした。また、同訪問調査により調べた受講者の所属施設における看護師と医師との協働内容と本プログラムの影響から「地域ケア実践看護師と医師との協働のあり方」を検討した。

達成度：研究テーマ1については、特定行為以外の4ケアスキル群のeラーニング又は集合演習による各々4プログラム、その他2プログラムの計10プログラム及びサポートプログラムを開発することができた。平成26年度からの4年間で28都道府県の139人が延べ261プログラム(科目)を受講し、84人(60.4%)は本プログラムが特にターゲットとしているへき地診療所又はへき地医療拠点病院の看護師であった。ARCSモデルによるプログラム評価の結果、注意(興味の獲得、刺激、注意の持続)、関連性(ゴールへの方向性、経験とのつながり、動機との一致)、自信(成功の機会、学習欲求、個人的なコントロール)、満足感(内発的満足感、報酬のある成果、公平さ)、いずれも良好であった。へき地に勤務する看護師は研鑽の機会が少ないことや看護活動に関する相談・サポートが十分ではないことが課題として明らかにされており(関山, 2015; 春山, 2017)、加えて、へき地診療所看護師の教育プログラムの開発が必要であるといわれている(梶井, 2018)。本トレーニングプログラムはへき地を含む地域医療現場で働く看護師に研鑽の機会を与えるものであり、また、へき地等地域ケア実践看護師の学習ニーズに合った教育プログラムであったといえる。

研究テーマ2については、双方向性のeラーニングによる教育方法及び教育・支援体制並びに高機能患者シミュレータ iStan、その他のシミュレータや養成した模擬患者の活用による集合演習による教育方法及び教育体制、プログラム修了後のサポートプログラムを構築し、「ICTを活用した地域ケア実践看護師の教育・支援システムの指針」を作成することができた。へき地に勤務する看護師の研鑽のためにはICTを活用した研鑽の機会の確保の必要性がいわれている(梶井, 2018)が、その有用性は明らかにされていなかった。本プログラムの受講者は北海道から沖縄の28都道府県に及び、地域特性も離島や山村過疎地等様々で、所属施設も訪問看護ステーションやへき地診療所、へき地医療拠点病院等様々であったが、ICTを活用した教育・支援システムにより地域特性や医療施設の規模・機能が多様であっても、受講が可能であり、研鑽の機会を確保できることを明らかにすることができた。eラーニングによるプログラムの修了率も年々、概ね高めることができ、学習支援システムとしても適当であった。

さらに、受講者と受講者の所属施設の看護管理者等への訪問によるインタビュー調査から、本プログラムの地域ケア実践及び看護師と医師との協働への一定の有用性を確認できた。また、地域ケア実践看護師のコンピテンシーを明らかにすることができ、わが国の地域医療における医師と看護師の協働モデルとなる「地域ケア実践看護師と医師との協働のあり方」を提示することができた。

以上のことから、テーマ1、テーマ2、ともに目標を達成した。

<優れた成果があがった点>

・へき地診療所看護師が実施経験のある診療の補助行為等を明らかにし(*1)、かつ医師1人、看護師1人という活動体制の場合の実施状況を明らかにし(**16)、へき地で働く看護職に必要なケアスキルの明確化及び看護師と医師との協働のあり方に示唆を得た。

・へき地医療拠点病院と100床以上400床未満の医療機関の教育研修体制のニーズと教育研修を阻害する要素を明らかにし(*2)、地域ケア実践看護師の教育・支援システムのあり方に示唆を得た。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

・平成 25 年度の調査結果に基づいて、特定行為（診療の補助）に係る 11 ケアスキル群及び特定行為以外の 4 ケアスキル群のトレーニングプログラム並びに臨床能力にかかわる 4 トレーニングプログラムの第 1 次試案を作成した (**9)。

・双方向性のある e ラーニングによる特定行為に係る 2 ケアスキル群及び特定行為以外の 4 ケアスキル群のトレーニングプログラム並びに臨床能力にかかわる 4 トレーニングプログラムを試行的に実施し、プログラムを評価し、本プログラムのニーズがあること、受講者は北海道から沖縄県に及び、離島・山村過疎地といった地域特性やへき地診療所・へき地医療拠点病院といった医療施設の機能の多様性があっても本プログラムの受講が可能であり、かつ一定の実践への有用性を確認した (**10～15)。

・試行的に実施したプログラムの評価に基づき、特定行為に係る 11 ケアスキル群のトレーニングプログラムの完成版及び集合演習や実習も組み合わせたブレンディッドラーニングによる臨床能力にかかわる 9 トレーニングプログラムの完成版を作成した。

・特定行為以外の 4 ケアスキル群の e ラーニング又は集合演習による各々 4 プログラム、その他 2 プログラムの計 10 プログラム及びサポートプログラムを開発した。集合演習によるプログラムを評価し、その有用性を明らかにした (**1、**2)。

・ICT を活用した教育における受講上の困難 (**7) や学習支援方法 (**3)、ICT を活用した演習の効果 (**6)、ICT を活用した教育実施者への支援体制の必要性 (**4)、模擬患者を活用した教育の効果 (**8)、シミュレータの開発と特定行為に係るケアスキル群のトレーニングプログラムへの導入の効果 (**5) を明らかにした。これらの結果に基づき、ICT を活用した双方向性の e ラーニングによる教育方法及び教育・支援体制並びにシミュレータや模擬患者の活用による集合演習による教育方法及び教育体制、プログラム修了後のサポートプログラムを構築し、「ICT を活用した地域ケア実践看護師の教育・支援システムの指針」を作成した。

・地域ケア実践看護師のコンピテンシーとして、【ICT 等による新たな学習方法を通して学習スタイルを拡大し継続する】【地域で培われた対象者の価値観・関係性を包括的に把握する】【地域内外の資源を招請し、工夫する】【対象者が地域で暮らし続けるためのヘルスケアチームづくりおよびチームを育成する】【医師との協働により隙間のない医療体制を創り上げる】を明らかにした。

・わが国の地域医療における医師と看護師の協働モデルとなる「地域ケア実践看護師と医師との協働のあり方」を提示した。具体的には、地域ケア実践看護師と医師との協働の必要条件は、【当該地域の人々の家族状況・生活状況、価値観等の共有】【地域の健康課題の共有】【双方の情報や考えも含めて共有するためのコミュニケーション】【自らの実践力を相手に明示した上での役割分担の調整】であり、協働においては、【治療・ケア方針の共有に基づく実践】が重要であり、また、【双方の役割をサポートし合う・補い合う】ことが必要となる。さらに、看護師は【橋渡しの役割】を担う。協働活動の基盤となるのは医師-看護師【相互の信頼】と【相手を認め合う】ことである。このような協働活動をしていく中で医師・看護師の医療者としての育ち合い・高め合いがなされ、ひいては【対象はもちろんのこと、家族や周囲の人々の苦痛を最小限にする】ことや【対象・家族・周囲の人々が受け入れられる方法で療養生活を送ることができるようにする】ことを目指す。

<問題点>

・e ラーニングを取り入れたトレーニングプログラムの検討にあたり、全ての研究者が十分な ICT に関する知識をもっているわけではなく、研究推進の阻害要因になる可能性があったため、ICT を活用した医学・看護学教育に関する教育・研究実績のある学内研究者の協力を初年度から得て勉強会を開催する等して研究を進めた。また、主な研究者の一人が平成 27 年度末で退職したため、平成 28 年度から交代で当該研究者を主な研究者とした。

・e ラーニングのコンテンツづくりや e ラーニングによる教育体制の準備に時間と労力がかかり、研究者の負担が懸念されたため、研究補助員の担当部分を検討し、研究者の負担軽減に努めた。

・研究テーマ 1 と研究テーマ 2 の当初計画について、同時並行としていた計画内容が、実際には研究テーマ 1 が先行し、研究テーマ 1 の結果を踏まえて研究テーマ 2 を進める必要がある場合も多く、各テーマに研究者を割り当てていたが役割を厳格に分けずに、連携・協働して研究活動をした。

・双方向性のある e ラーニングプログラムは、受講者の ICT リテラシーが学習活動に影響するため、開講の度に集合オリエンテーションを企画・実施したが参加者は少なかった。そのため e ラーニング受講マニュアルを作成するとともに、e ラーニングの受講に関わる相談窓口を設定し、学習支援体制を強化した。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

＜評価体制＞

・研究テーマ1、2の各研究代表者及び4委員会の委員長、学内関係者5名（附属病院長、看護部長、医学部教員等）及びへき地医療・へき地看護、在宅看護等の学外専門家6名（医師、看護師、大学教員）による事業評価委員会を設置し、年1回事業評価委員会を開催した。

・事業評価委員会の結果も踏まえ、自己評価を兼ねて、毎年度報告書を作成した。年度単位の自己評価を踏まえて、次年度研究計画や予算計画を立てるとともに、研究者や4委員会の役割分担を見直し、事業評価委員や経理事務担当の意見も得ながら研究を進めた。

・eラーニングによるプログラムは毎年、募集人員を上回る応募があり、受講者への成果もみられ費用対効果はよいと判断された。特定行為以外の4ケアスキル群等の演習によるプログラムは、受講者への成果がeラーニング以上にみられたが、応募者は少なく、シミュレータの使用や外部講師を含めた人員を考えると、費用対効果がよいとはいえない。しかし、本研究プロジェクトで開発したシミュレータや模擬患者を活用した演習プログラムの知見は、平成27年10月から本学で実施している看護師特定行為研修に活かされ、毎年60人以上の受講者がおり、本研究プロジェクトによる知見の波及効果を含めると、費用対効果はそう悪くなかったと分析する。

＜研究期間終了後の展望＞

・「地域ケア実践開発研究事業」として大学の予算を平成30年度から3年間確保し、本研究プロジェクトで開発したeラーニングによるベーシック・プログラム5プログラム（各10人）及び集合演習によるフォローアップ・プログラム5プログラム（各6人程度）を継続する。今後は、本研究プロジェクトで明らかにした地域ケア実践開発のコンピテンシーの理解及び行動の意識化、そして行動化につながるよう、受講によるコンピテンシーの各レベルへの影響を評価する等して、地域ケアスキル・トレーニングプログラムをさらに精練していく。また、認知症ケア加算2に求められる「適切な研修」や「ICTを利用した死亡診断等のための報告に伴う、看護師を対象とした法医学等に関する一定の教育」も視野に入れて、高齢者看護2（終末期）及び高齢者看護3（認知症）の教育内容を見直していく。

＜研究成果の副次的効果＞

・地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律により、保健師助産師看護師法の一部が改正され、平成27年10月から特定行為に係る看護師の研修制度が施行された。本学では看護師特定行為研修センターを立ち上げ、当該研修の指定研修機関に指定され、平成27年10月から研修を実施している。この研修は本学の建学の理念を踏まえ、地域特性や施設の規模にかかわらず、看護師が働きながら受講できることを目指しており、本研究プロジェクトで開発した特定行為に係る11ケアスキル群のトレーニングプログラム及び集合演習や実習も組み合わせたブレンディッドラーニングによる臨床能力にかかわる9トレーニングプログラム、双方向性のeラーニングやシミュレータ及び模擬患者を活用した演習プログラムの教育方法・教育体制の知見、さらには受講者の修了後も含めたフォローのために開発したeポートフォリオを活かしながら実施している。

・本研究プロジェクトに取り組むまでは、看護学部においてeラーニング等ICTを活用した教育は皆無に等しかったが、本研究プロジェクトを機にLMS(Moodle)が導入され、学生への支援や看護教育にICTを活用する教員が増えた。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

(1) 地域医療

(2) 地域ケア

(3) 看護師

(4) 現任教育

(5) 教育体制

(6) へき地

(7) 遠隔教育

(8) チーム医療

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

- *1) 江角伸吾、山田明美、中島とし子、鈴木久美子、塚本友栄、関山友子、青木さぎ里、菊地陽、春山早苗：へき地診療所における看護師の診療の補助行為の実施状況－12項目の特定行為(案)に着目して－、日本ルーラーシグ学会誌、9、47-56、2014、査読有り。
- *2) 菊地陽、塚本友栄、横山由美、永井優子、春山早苗、塚原節子：へき地医療拠点病院と一般病院における教育研修体制のニーズとその障害となっているもの、日本ルーラーシグ学会誌、9、37-46、2014、査読有り。

<図書>

なし

<学会発表>

- **1) 中野真理子、佐々木雅史、古島幸江、中村美鈴、藤巻郁朗、本田芳香、春山早苗：地域ケアスキル・トレーニングプログラム 高齢者の急変時における看護実践演習の教育効果の検討、日本ルーラーシグ学会 第12回学術集会、鹿児島、2017.11.
- **2) 退院支援・調整に関わる地域ケアスキル獲得に向けた e-learning 受講後のロールプレイ演習の実施と評価、日本ルーラーシグ学会 第12回学術集会、鹿児島、2017.11.
- **3) 古島幸江、中村美鈴、中野真理子、佐々木雅史、藤巻郁朗、本田芳香、春山早苗：e-learning を活用した学習活動からみたへき地で生活する看護職に対する学習支援の検討、日本ルーラーシグ学会 第12回学術集会、鹿児島、2017.11.
- **4) 川上勝、浅田義和、村上礼子、関山友子、江角伸吾：看護師特定行為研修における Moodle 活用について、Moodlemoot Japan2017、栃木、2017.2.
- **5) 川上勝、鈴木美津枝、三科志穂、清水みどり、福田順子、田村敦子、平尾温司、村上礼子、春山早苗：プラットフォーム型シミュレータに関する研究－瘦孔管理研修に用いて－、第4回日本シミュレーション医療教育学会 学術大会、静岡、2016.9.
- **6) 村上礼子、鈴木美津枝、三科志穂、関山友子、江角伸吾：ICT を活用した演習からシミュレーション実習へ繋ぐ企画の評価と今後の課題、第4回日本シミュレーション医療教育学会 学術大会、静岡、2016.9.
- **7) 鈴木美津枝、村上礼子、関山友子、江角伸吾、川上勝、飯塚秀樹、石井慎一郎、浅田義和、春山早苗：ICT を活用した遠隔教育の推進に向けた教育方法の検討－特定行為に係る看護師の研修制度の受講生の思いに着目して－、日本ルーラーシグ学会 第11回学術集会、山梨、2016.9.
- **8) 里光やよい、本田芳香、浜端憲次、清水みどり、湯山美杉、岡野朋子、大澤弘子：模擬患者を用いたアセスメント演習に参加した地域で活動する看護師の自己評価、日本ルーラーシグ学会 第11回学術集会、山梨、2016.9.
- **9) 村上礼子、川上勝、里光やよい、福田順子、横山由美、本田芳香、春山早苗：へき地を含む地域で働く看護師のための地域ケアスキル・トレーニングプログラムの検討、日本地域看護学会 第19回学術集会、栃木、2016.8.
- **10) 横山由美、村上礼子、川上勝、里光やよい、福田順子、本田芳香、春山早苗(2016)：へき地を含む地域で働く看護師のための地域ケアスキル・トレーニングプログラムの評価、日本地域看護学会 第19回学術集会、栃木、2016.8.
- **11) Asada, Y., Honda, Y., Murakami, R., Esumi, S., Iizuka, Y., Haruyama, S. : Design and development of the e-learning course for the nurses who perform medical auxiliary acts, AMEE (Association for Medical Education in Europe) 2015 eLearning Symposium, Glasgow, UK, 2015.9.
- **12) 村上礼子、関山友子、中村剛史、春山早苗：地域ケアスキル・トレーニングプログラム「臨床推論・フィジカルアセスメント」の検討－現任看護師を対象とした e-learning 教育の試みから－、日本ルーラーシグ学会 第10回学術集会、栃木、2015.8.
- **13) 長谷川直人、横山由美：看護師特定行為「血糖コントロールのための薬剤投与関連」における講義科目のトライアル結果報告、日本ルーラーシグ学会 第10回学術集会、栃木、2015.8.
- **14) 千葉理恵、半澤節子、石井慎一郎、永井優子：現任看護師を対象とした e-learning による認知症看護教育プログラムの作成・試行と評価、日本ルーラーシグ学会 第10回学術集会、栃木、2015.8.
- **15) 塚本友栄、島田裕子、青木さぎ里、根来利佳子：現任看護師対象の e-learning による退院支援・

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

調整教育プログラムの開発・試行と評価、日本ルーラルナース学会 第 10 回学術集会、栃木、2015. 8.
 **16) Esumi, S., Suzuki, K., Tsukamoto, T., Shimada, H., Sekiyama, T., Aoki, S., Haruyama, S. :
 Survey of specified acts of medical assistance to be provided by nurses in rural and remote area
 clinics, 18th East Asian Forum of Nursing Scholars, Taiwan, 2015. 2.

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

- ・日本型地域ケア実践開発研究事業中間報告会（日本ルーラルナース学会第 10 回学術集会合同開催）、自治医科大学地域医療情報研修センター、2015 年 8 月 28 日-29 日。
 内容：事業の概要、中間報告、シンポジウム「看護師の役割拡大と医師との協働」、海外研究者招聘講演「Mix Methods を用いた看護研究」
- ・日本型地域ケア実践開発研究事業成果報告会、自治医科大学地域医療情報研修センター、2017 年 9 月 2 日。
 内容：研究事業の概要、地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発プロセス、シンポジウム「地域ケアスキル・トレーニングプログラムの評価－地域ケア実践看護師のコンピテンシーと医師との協働に焦点を当てて－」、海外研究者招聘特別講演「Distance education for clinical or nurses in UK: Current status and future issues」
- ・研究事業の概要のホームページへの掲載
http://www.jichi.ac.jp/graduate_n/care/index.html
- ・平成 25 年度事業報告書、平成 26 年度事業報告書、平成 25-27 年度中間報告書、平成 28 年度事業報告書、平成 25-29 年度研究成果報告書、平成 25-29 年度研究成果報告書（概要）リーフレット、のホームページへの掲載 http://www.jichi.ac.jp/graduate_n/care/report.html

<これから実施する予定のもの>

該当なし

14 その他の研究成果等

- ・特定行為（診療の補助）に係る 11 ケアスキル群のトレーニングプログラム：呼吸器（気道確保に係るもの）関連、呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連、ろう孔管理関連、栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連、創傷管理関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連、感染に係る薬剤投与関連、血糖コントロールに係る薬剤投与関連、循環動態に係る薬剤投与関連、精神及び神経症状に係る薬剤投与関連、皮膚損傷に係る薬剤投与関連
- ・臨床能力にかかわる 9 トレーニングプログラム：臨床推論/フィジカルアセスメントⅠ、臨床推論/フィジカルアセスメントⅡ、病態生理/疾病論Ⅰ、病態生理/疾病論Ⅱ、臨床薬理学、医療安全学、特定行為と手順書、特定行為基礎実習Ⅰ、特定行為基礎実習Ⅱ
- ・eラーニングによる特定行為以外の 4 ケアスキル群のトレーニングプログラム：高齢者看護 1（急性期）、高齢者看護 2（終末期）、高齢者看護 3（認知症）、退院支援・調整と多職種連携
- ・集合演習による特定行為以外の 4 ケアスキル群のトレーニングプログラム：高齢者看護演習 1（急性期）、高齢者看護演習 2（終末期）、高齢者看護演習 3（認知症）、退院支援・調整と多職種連携演習
- ・その他のプログラム：eラーニングによる「看護研究」、個別指導による「看護研究フォローアップ研修」
- ・DVD 教材「医療コミュニケーション力を育てるために」（目的は模擬患者候補者に模擬患者の理解を促し、参加協力を得ること）
- ・プラットフォーム型シミュレータ（人工皮膚の交換により様々な特定行為のトレーニングが可能なシミュレータ）

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

アドバイザーや外部評価委員を含め、医療系の研究者の参画が望ましい。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

当初より、主な研究者に地域医療の教育研究実績のある医学部教員及び附属病院看護師がいるが、これ以外に同様の医師 1 人、附属病院副看護部長 1 名、同看護職キャリア支援センター看護師長 1 名を研究協力者とした。また、事業評価委員として附属病院長、看護部長、医学部教員等を学内委員に、へき地医療・へき地看護、在宅看護等に精通している医師、看護師を学外委員とした。これにより、医療現場の実際に即した意見が得られ、また本研究プロジェクトの地域ケアスキル・トレーニングのプログラムづくりや実施において、附属病院の医師・看護師の協力が得られやすくなった。

<「中間評価時」に付された留意事項>

該当なし

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 記						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成25年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	20,405	11,229	9,176				
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	12,997	4,331	8,666				
	研究費	13,428	7,600	5,828				
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	30,298	15,567	14,731				
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	16,295	9,191	7,104				
平成29年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	21,751	12,652	9,099				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	12,997	4,331	8,666	0	0	0	0
	研究費	102,177	56,239	45,938	0	0	0	0
総計	115,174	60,570	54,604	0	0	0	0	

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

17 施設・装置・設備の整備状況（私学助成を受けたものはすべて記載してください。）

《施設》（私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。）（千円）

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

_____ m²

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）

（千円）

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)							
(研究設備) 高機能患者シミュレータ iStan	H26年度	iStanVER6標準 セット (ISTAN- 100)	1	134 h	12,997	8,665	私学助成
(情報処理関係設備)							

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成 25 年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	
主な内容				
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	1,757	演習用シミュレータの付属備品	40	教育プログラムの受講生の演習で使用
		教育プログラム作成のための書籍	357	教育プログラム (e-learning教材) 作成に係る資料として使用
		その他	1,360	当該研究事業に係る事務用品等
印刷製本費	141	文献複写費	12	当該研究事業に係る研究資料収集
		その他	129	当該研究事業専用封筒の作成
旅費交通費	2,353	外部事業評価委員の旅費	158	年1回の事業評価委員会の外部委員に係る旅費
		その他	2,195	インタビュー調査協力者旅費、へき地調査等旅費
報酬・委託料	2,038	業務補助者の委託料	1,603	人材派遣会社と委託契約を締結し1名の業務補助者を雇用
		その他	435	記念講演会を開催した際の招聘講師への謝礼
役務費	276	チラシ郵送代	134	記念講演会開催の周知
		その他	142	事業評価委員会に係る会場 (東京) への資料郵送等
賃借料	533	会場借上げ料	527	事業評価委員会会場 (東京) の借上げ料
		その他	6	へき地調査時の交通手段としてのタクシー利用料
雑費	643	事業評価委員会昼食代	77	事業評価委員会委員の昼食代
		その他	566	当該事業に関連する各種研修会参加費等
計	7,741		7,741	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	3,239	研究業務補助 (資料作成、会議議事録作成、年度報告書作成等)	1,963	時給2,020円 年間時間数779時間 1名
			1,276	時給1,650円 年間時間数608時間 1名
教育研究経費支出				
計	3,239		3,239	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	9,425	動脈採血シミュレータ	250	教育プログラムの受講生が演習で使用するためのシミュレータ
		外傷・救急超音波教育ユニット	3,780	
		気道管理トレーナー	218	
		喉頭鏡セット マッキントッシュ型	118	
		AEDレシアントレーニングシステムスキルガイドモデル	239	
		新規機案シミュレーター 評価型気道管理シミュレーター	4,452	
		喉頭鏡セット イングリッシュマッキントッシュ型	118	
		動脈採血シミュレータ M99	250	
図 書				
計	9,425		9,425	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
サーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

(千円)

年 度	平成 26 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	1,423	e-learningライセンス契約料 褥瘡ケアモデル その他	313 89 1,021	e-learning講義コンテンツの作成に使用 教育プログラムの受講生が演習で使用するためのシミュレータ 当該研究事業に係る事務用品等
印刷製本費	15	文献複写費	15	当該研究事業に係る研究資料収集
旅費交通費	1,919	外部事業評価委員の旅費 グループインタビュー調査協力者旅費 その他	96 480 1,343	年1回の事業評価委員会の外部委員に係る旅費 グループインタビューに協力した学外者の旅費 模擬患者 (SP) 養成講座講師の旅費等
報酬・委託料	639	謝礼 その他	150 489	外部事業評価委員の謝礼 模擬患者 (SP) 養成講座講師の謝礼等
役務費	215	ホームページ掲載料 その他	16 199	英語表記掲載のための英文翻訳料 事業評価委員会に係る会場 (東京) への資料郵送等
賃借料	617	会場借上げ料	617	事業評価委員会会場 (東京) の借上げ料
雑費	555	事業評価委員会昼食代 その他	75 480	事業評価委員会委員の昼食代 当該事業に関連する各種研修会参加費等
計	5,383		5,383	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	5,280	研究業務補助 (資料作成、会議議事録作成、年度報告書作成等)	3,839 1,441	時給2,020円 年間時間数1529時間 1名 時給1,690円 年間時間数950時間 1名
教育研究経費支出				
計	5,280		5,280	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	2,765	バーチャルi.v CPS実習ユニット	2,273 492	教育プログラムの受講生が演習で使用するためのシミュレータ
図 書				
計	2,765		2,765	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
サーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

(千円)

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	11,334	eラーニングライセンス契約料 s p s s 統計ソフト その他	405 904 10,025
印刷製本費	150	ポスター印刷費	150
旅費交通費	2,918	外部事業評価委員の旅費 グループインタビュー調査協力者旅費 その他	53 238 2,627
報酬・委託料	618	謝礼 その他	275 343
役務費	836	会場設営費 通訳料 その他	270 216 350
賃借料	577	ホテル宿泊費 会場借上げ料	33 544
雑費	108	昼食代 その他	54 54
計	16,541		16,541
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	4,588	研究業務補助(資料作成、会議議事録作成、年度報告書作成等)	533 時給2,020円 年間時間数168時間 1名
			750 時給2,020円 年間時間数314時間 1名
			427 時給830円 年間時間数382時間 1名
			42 時給830円 年間時間数46時間 1名
			1,248 時給1,840円 年間時間数776時間 1名
			1,588 時給2,000円 年間時間数524時間 1名
教育研究経費支出			
計	4,588		4,588
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	9,169	気管切開ケア・シミュレータ	450
		胸腔ドレナージ・穿刺トレーナー	2,166
		末梢挿入中心静脈カテーテル PICCシミュレータ	439
		動脈採血シミュレータ	269
		CVC穿刺挿入シミュレータ	706
		汎用性超音波画像診断装置	2,981
		膀胱ろうシミュレータ	227
		経管栄養シミュレータ	645
図 書		ノートパソコン等	1,286
計	9,169		9,169
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

(千円)

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	1,975	書籍代 その他	544 1,431
印刷製本費	407	事業報告書作成 その他	356 51
旅費交通費	5,082	外部事業評価委員の旅費 グループインタビュー調査協力者旅費 その他	111 1,340 3,631
報酬・委託料	1,620	謝礼 保守点検契約料 その他	247 810 563
役務費	270	テープ起こし クリーニング代 その他	62 4 204
賃借料	229	会場借上げ料 その他	221 8
雑費	155	昼食代 その他	30 125
計	9,738		9,738
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	6,556	研究業務補助(資料作成、会議議事録作成、成果報告書作成等)	46 5,437 689 384
教育研究経費支出			時給2,020円 年間時間数21時間 1名 時給2,020円 年間時間数1,752時間 1名 時給1,840円 年間時間数372時間 1名 時給1,510円 年間時間数239時間 1名
計	6,556		6,556
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品 図 書			
計	0		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター 研究支援推進経費			
計	0		

(様式2)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

(千円)

年 度	平成 29 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	5,419	書籍代 その他	3,852 1,567
印刷製本費	2,405	事業報告書作成等 その他	1,991 414
旅費交通費	3,935	外部事業評価委員の旅費 成果報告会の旅費 その他	132 1,122 2,681
報酬・委託料	4,586	謝礼 業務補助者委託料 その他	416 2,725 1,445
役務費	2,016	同時通訳料 その他	825 1,191
賃借料	256	宿泊料 その他	177 79
雑費	207	昼食代 その他	34 173
計	18,824		18,824
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	2,927	研究業務補助(資料作成、会議議事録作成、年度報告書作成等)	953 328 1,646
教育研究経費支出			時給1,840円 年間時間数512時間 1名 時給1,510円 年間時間数209時間 1名 時給1,830円 年間時間数804時間 1名
計	2,927		2,927
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品			
図 書			
計	0		0
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		



平成29年度 修了者の声



ベーシック・プログラム

高齢者看護1(急性期)

人材不足で目先のことにとらわれ、地域における医療の目標が見えなくなっていました。その様なときに、科目「高齢者看護1(急性期)」で、救急対応を含めて基礎から学ぶ機会をいただき、改めて自分の知識不足を実感するとともに、今後の課題が明らかになりました。知識だけでなく、対象の状況把握と優先度を考える思考が理解できたと思います。

へき地診療所 看護師

高齢者看護2(終末期)

私はへき地診療所において外来診療と訪問看護を行っています。科目「高齢者看護2(終末期)」では、普段行っている在宅での疼痛管理や終末期看護の具体的な方法だけでなく、終末期ケアにおける倫理や、看取り後のグリーフケアについても学ぶことができ、とても参考になりました。課題についてのweb上での意見交換は、終末期ケアについてより深く考える機会となり、今後に生かせる内容であったと思います。

へき地診療所 看護師



フォローアップ・プログラム

高齢者看護演習1(急性期)

急変時対応について、実際に演習において、動いてみてわかることがたくさんありました。また、家族の看護についてのディスカッションではゆっくり話すことができ、久しぶりに自分の看護観をみつめることができたよい時間でした。

離島診療所 看護師

高齢者看護演習2(終末期)

研修に参加して、ご家族を亡くされた方へのグリーフケアの大切さと必要性を痛感しました。患者とその家族に寄り添った看護が少しでもできるように、この研修で学んだことを明日からの仕事に活かしていきたいと思います。

看護師

高齢者看護演習3(認知症)

フォローアップ研修の中でもそれぞれの参加者の体験を通して、言葉のもつ力の大きさを実際に知ることができました。言葉ひとつで、患者やその家族の変化が見られることが実感できたことは私にとっては大きな収穫でした。

看護師

高齢者看護3(認知症)

認知症は経験の少ない分野だったので、今回とても勉強になりました。仕事をしながらの勉強は思ったより大変で、途中、学習が滞った時もありましたが、学習内容が動画などとてもわかりやすく、隙間時間を利用して学習しやすかったです。今回学んだことを、今後に活かしていきたいと思います。

看護師

退院支援・調整と多職種連携

自分の生活スタイルに合わせながら、e-ラーニングの視聴も滞りなく進めることができました。また、事例を交えて学習を進められたことで考え方やニーズの着目点などがわかりやすく、学習直後から業務の中に取り入れることができました。

その他病院 看護師

看護研究1

看護研究の学習を進めることで、日常の実践における疑問や看護ケアの改善のために、どのような手順でどのように解決に導けばよいのかを知ることができました。また、これまで文献を読むことがあまりありませんでしたが、「文献検索」の学習では様々な研究論文を読むことが楽しいと思えました。

看護師

提出した課題について、毎回きちんと目を通して頂き、アドバイスを頂いた事はすごく励みになりました。看護研究は苦手な分野でしたが、今回の受講でなんとなく流れや取り組み方がわかったような気がします。

看護師

退院支援・調整と多職種連携演習

退院支援・調整と多職種連携演習では、病棟看護師としての退院支援の役割、他職種との関わり方、退院支援の大切さを他のスタッフへどの様に発信すればよいか等、今の自分が置かれている立場から退院支援を学ぶことができました。

看護師

看護研究

言葉の意味や同義語などを調べながら看護研究を進めることにより、言葉の難しさを感じるとともに、言葉を調べたり知ることを楽しめることができました。

看護研究は大変なエネルギーを要しますが、自分自身も成長することができ、今後も看護研究を継続したいという思いが芽生えました。

看護師



本研究事業に関する詳細情報はwebページをご覧ください
http://www.jichi.ac.jp/graduate_n/care/index.html

お問い合わせ



自治医科大学 看護学部 地域ケア実践開発研究事業事務局

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-159
電話 0285-58-7408 FAX 0285-44-7257
Email:cntrial@jichi.ac.jp



平成25~29年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 「日本型地域ケア実践開発研究事業」



いつでもどこでも！ e-ラーニングで学ぶ地域ケア実践スキル

地域ケアスキル・トレーニングプログラムの成果(概要)

地域ケアスキル・トレーニングプログラムとは

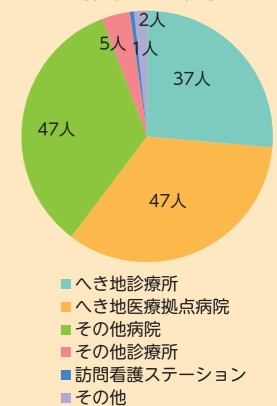
地域医療を担う医師不足等を背景に、チーム医療の推進と看護の役割拡大への期待が高まっています。地域ケアスキル・トレーニングプログラムは、山村や離島を含む地域の実践現場で働く看護師が、チーム医療・チームケアの中で、より一層、機能していくために、さらには、地域ケアのリーダーとなり得るために、卓越した地域ケアスキルを獲得することを目指したプログラムです。

本プログラムは、自治医科大学大学院看護学研究科が文部科学省の補助金を得て実施した「日本型地域ケア実践開発研究事業」により開発されました。

プログラムの対象は

本プログラムをご案内しているのは、全国のへき地診療所およびへき地医療拠点病院、栃木県内の医療機関、北関東の訪問看護ステーション、その他の病院と診療所などです。
平成26年度から29年度まで北海道から沖縄までの看護師139名(延べ261科目)の方々が受講しています。そのうち、79名(延べ148科目)の方々が修了しています。
修了者には修了証を発行しています。

プログラム受講者の所属施設
(平成26~29年度)



地域ケアスキル・トレーニングプログラムの概要

1. ベーシック・プログラム

高齢者看護1(急性期)

主な学習内容:呼吸不全・不整脈等が疑われる場合、疼痛がある場合、事故、水分・電解質異常、等

高齢者看護2(終末期)

主な学習内容:諸症状とそのアセスメント、疼痛と緩和ケア、家族支援とグリーフケア、他職種との連携、等

高齢者看護3(認知症)

主な学習内容:認知症をもつ人とその家族のケアニーズ、疾患、治療、政策動向、等

退院支援・調整と多職種連携

主な学習内容:基本的な流れ、ハイリスク者選定、ニーズの明確化、カンファレンスの企画・運営、等

看護研究

主な学習内容:研究倫理、文献検討、研究デザイン、量的・質的アプローチ、計画書の書き方、等

2. フォローアップ・プログラム

高齢者看護演習1(急性期)

シミュレータを使った体験学習と振り返り

高齢者看護演習2(終末期)

事例を用いた演習

高齢者看護演習3(認知症)

現場で対応困難な事例を踏まえた体験の共有・討議

退院支援・調整と多職種連携演習

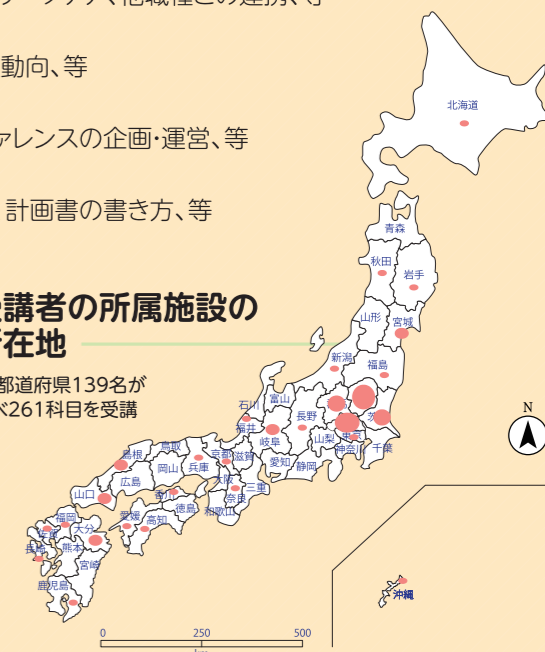
退院前カンファレンスを企画・運営するロールプレイ演習

看護研究フォローアップ研修

対面またはeメールによる一連の看護研究支援

受講者の所属施設の所在地

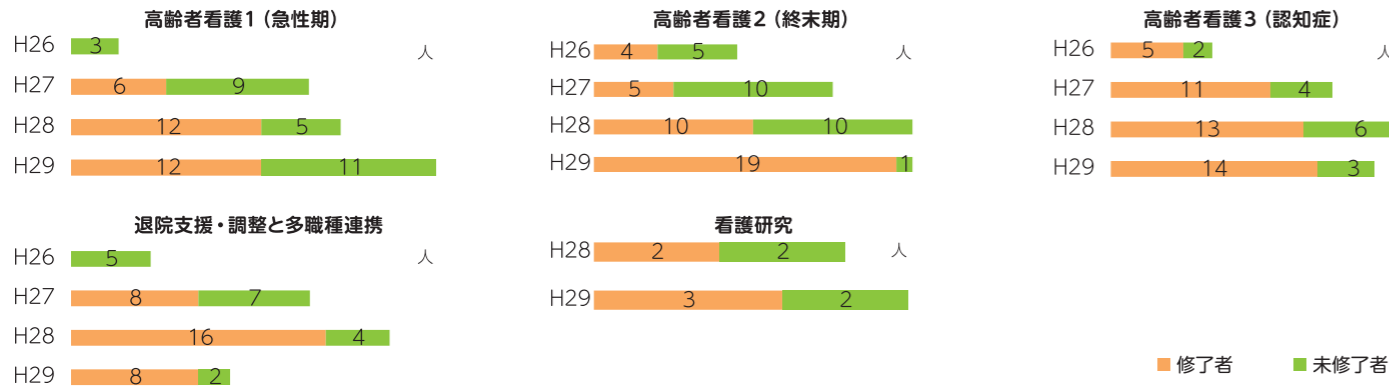
28都道府県139名が
延べ261科目を受講



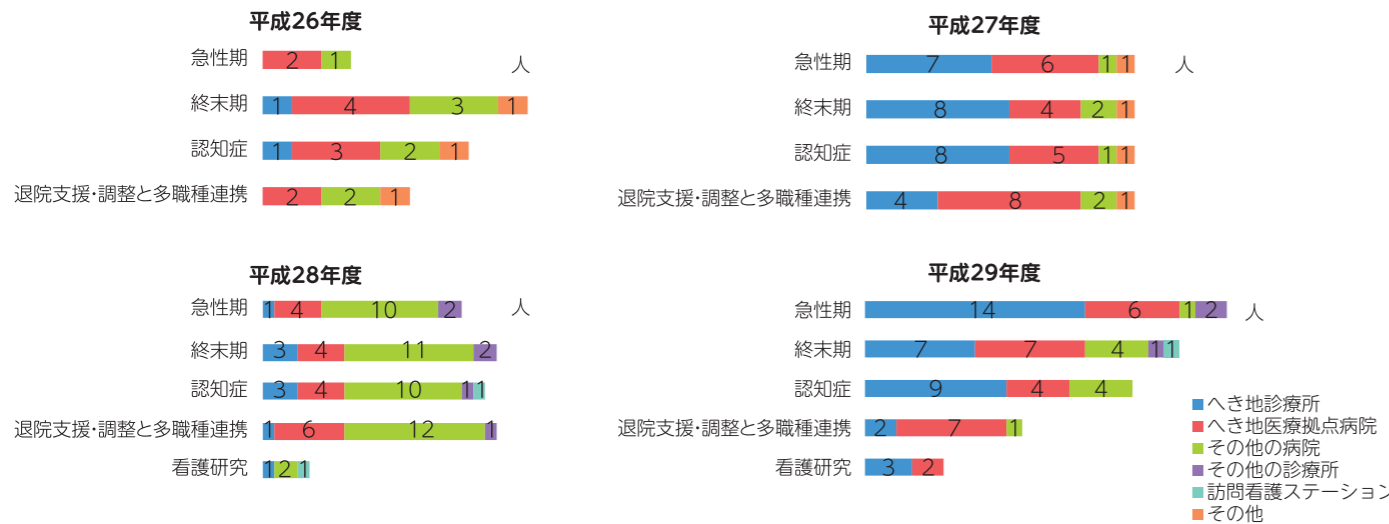
地域ケアスキル・トレーニングプログラムの受講者数と修了者数

1. ベーシック・プログラム

ベーシック・プログラムの受講者数と修了者数



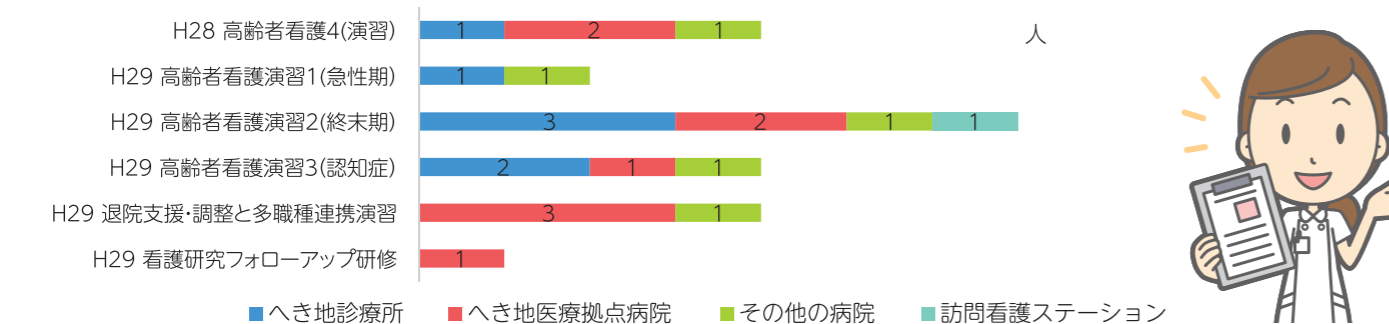
ベーシック・プログラム科目受講者の所属施設分類別人数



2. フォローアップ・プログラム

年度	科目	受講者数 (修了者数)	所属施設			
			へき地診療所	へき地医療拠点病院	その他の病院	訪問看護ステーション
平成28年度	高齢者看護4(演習)	4	1	2	1	0
平成29年度	高齢者看護演習1(急性期)	2	1	0	1	0
	高齢者看護演習2(終末期)	7	3	2	1	1
	高齢者看護演習3(認知症)	4	2	1	1	0
	退院支援・調整と多職種連携演習	4	0	3	1	0
	看護研究フォローアップ研修	1	0	1	0	0

フォローアップ科目受講者の所属施設分類



地域ケア実践看護師のコンピテンシー

ICT等による新たな学習方法を通して学習スタイルを拡大し継続する力

- ICT等により学ぶ方法の機会を活かして、新たに学びはじめるきっかけをつくる
- 看護実践者としての行動の意味を内省する
- 看護実践を批判的に評価し疑問をもつ
- 利用可能な最善のエビデンスを用いてケアに活かす
- ICT等により学ぶ方法の機会を活かして、地域の看護師とのネットワークをつくる

地域で培われた対象者の価値観・関係性を包括的に把握する力

- 地域で培われた対象者とその家族の価値観を受入れる
- 看護師自身がその地域で暮らす住民の一人として、対象者とその家族との距離感や関係性の持ち方を考慮する
- 地域で暮らす対象者が持つ関係性を踏まえて生活に密着したケアを行う
- 地域住民が自らの健康管理を適切に行えるよう支援する

地域内外の資源を調整し、工夫する力

- 地域内の資源の特徴を活かし、対象者を最適な健康状態へと導く
- 地域外の資源の特徴を踏まえ、対象者のヘルスケアニーズに適した資源利用の方法を調整し、工夫する
- 地域内外の資源へのアクセスの課題を認識して、調整し、工夫する

対象者が地域で暮らし続けるためのヘルスケアチームづくりおよびチームを育成する力

- 日頃から関係者との距離が近いという地域の強みを活かして、ヘルスケアチームの一員として積極的にチームとの関係性をつくる
- ヘルスケアチームのリーダーとして、個々のメンバーの能力を活かすために働きかける
- ヘルスケアチームのリーダーとして、自身の実践力を磨くための方法を見出し、自己研鑽する
- 対象者の個別ニーズに必要なネットワークをつくりケアを展開する

医師との協働により隙間のない医療体制を創り上げる力

- 医師の診断に役立つ正確で的確な報告をする
- 地域の医療体制を踏まえて、対象者を他の医療機関につなぐために必要な判断や的確な対応をする

地域ケア実践看護師と医師との協働のあり方

地域医療支援病院・へき地医療拠点病院・へき地診療所の受講者14人、管理者(医師の場合もあり)11人を対象とした、看護師と医師との連携または役割分担の必要性を感じる点や課題、それらに必要な知識やスキルについてのインタビューから

